

### 首都大学野球リーグ戦 勝ち点制から勝率制へ

#### 学業重視し再編

今年創設50周年を迎えた首都大学野球連盟は、リーグ戦の大幅再編に踏み切った。昨年までは勝ち点制だったが、今春から100のみで総当たり制となり、それに伴い1部2校増の8校になった。このため城西大はそのまま1部に残留し、2部の上位である桜林大と東京経済大が1部に昇格した。

#### 城西は1部残留

今季リーグ戦は4月12日の東海大戦から始まった。残念ながら城西大は戦とも敗北

よって、勝率4割で分るリーグ4位となり、1部リーグで対戦できる力を着実につけていくことがわかった。

#### 授業欠席避ける

首都大学連盟が今回、リーグ戦の大幅再編に踏み切った背景には、学業重視がある。昨年までの戦術方式の勝ち点制で、1勝1敗の場合、勝ち負けは関係なく、決着が月曜日以降になることも

あった。月曜の授業に出遅れないため単位を落として、留年や中退になる部員もいる。将来の就職活動にも影響が出ることを避けるには、頭を悩ませてきたという。

このため、連盟では論議を重ね、戦術方式の勝率制に変更することを決めた。これにより100のみで試合のみならず、月曜に試合待ちを避けることができるようになった。しかし、当時の部員からは、「スポーツも教育の一部。野球のスカウトに見ても、プロ野球のスカウトが、プロ野球の試合が減ってしまうのではないかと」という不満も出ていた。連盟は春のリーグ戦終了後、改めて試合方式を話し合っている。今後の動きに注目したい。

【松岡聖史、西村英郎】

### アメリカンフットボール部 秋に向けレギュラー争い 1年生着々と成長

アメリカンフットボール部は今年度1年生が1人入部した。新チームは1年生が着々と成長してきていて、各学年に良い刺激を与えているという。春はオープン戦を数試合行い、冬のトレーニングの成果を試した。

【佐久間啓】



4月に行われた埼玉東大サッカー選手権大会は、見事優勝することができた。さらに、5月に行われた関東代表決定戦で、東京理科大学に5-1で勝利し、AMUハイナルカップのチャンピオン大会への出場権を獲得した。しかし、この大会の一回戦で関東1部リーグの駒澤大と対戦し、0-8と敗れた。関東1部リーグの大きな壁を突破した結果だった。一方、4月から月にかけ、埼玉東大1部リーグが開催されている。この大会は埼玉東大優勝し、さらに関東大会

### サッカー部 関東2部復帰へ奮闘

記者の目 大学公認化 さらなる積極活動へ

「JSポ」を発行している城西スポーツ編集委員会は今春、活動4年目にして大学公認サークルとして認められました。私たちが4年生も残り少ない学生生活の中で、後輩たちが活動しやすい環境作りをしています。学生生活で何かやりとげたい。スポーツを観るのが好き、または就職活動に向けて自信をつけたい、そんな方の参加をお待ちしております。【中村亮介】

取材スタッフ	アドバイザー
編集長 経営学部4年 知見寺美紀	2013年度卒業 久村洋介
経営学部4年 佐久間啓	伊藤晋道
経営学部4年 市澤雅希	経営学部2年 松岡聖史
現代経済学部4年 野島雄	経営学部2年 西村英郎
経営学部4年 斎藤明彦	経営学部3年 佐川由紀

JSポ [フェイスブック](http://www.facebook.com/JOSAISPORTS) はこちら ▶ <http://www.facebook.com/JOSAISPORTS>

### 弓道部 体験取材

「JSポ」の新しい企画として、体験取材をすることになり、弓道部の門をたたいた。弓道とは、非常に簡単に見えるが、実際にやるのは、なかなか難しい。矢を引くときは、呼吸を止め、目を瞑る。矢が飛ぶ瞬間は、心臓が止まるように感じる。矢が飛ぶ瞬間は、心臓が止まるように感じる。矢が飛ぶ瞬間は、心臓が止まるように感じる。

つがえ方、引き方を教えてもらい、矢を射てみた。本来の手で引くのではなく、弦は一回頭まで引いて、一呼吸おいてから引く。矢が飛ぶ瞬間は、心臓が止まるように感じる。矢が飛ぶ瞬間は、心臓が止まるように感じる。

初心者大歓迎  
弓道部は4月から5月にかけて関東学生大会、8月にインカレ、9月に秋季リーグと大会が多い。今は8月、9月に向けて大形式で練習を行っている。



弓道部の練習風景

### 構えから矢を射るまで 精神力、技術、体力が必要

つがえ方、引き方を教えてもらい、矢を射てみた。本来の手で引くのではなく、弦は一回頭まで引いて、一呼吸おいてから引く。矢が飛ぶ瞬間は、心臓が止まるように感じる。矢が飛ぶ瞬間は、心臓が止まるように感じる。

### 第98回日本陸上競技選手権 5000メートル 村山2位 アジア大会へ

アジア大会の代表選考会を兼ねた第98回日本陸上競技選手権大会は6月6日から8日にかけて福島市内で行われた。5000メートルに出場した村山紘太（経営4）は接戦の末、2位に入り、見事アジア大会の切符を手にした。また、1500メートルでは平塚祐介（経営3）が7位に入賞した。【知見寺美紀】

村山は集団の中程でペースを進めた。徐々にポジションを上げていき、3000メートルを過ぎたところで先頭を抜いた。同じ集団には一方では日本選手権4連覇達成した佐藤修輔選手（日清食品グループ）がおり、誰を相手にスパートのタイミングを狙っていた。残り1周に入るところで村山が前に出てスパートをかけたが、最後は佐藤選手にかわされた。2位のフィニッシュに「勝を目標にしていたので全く満足はしていない。しかし全力を出し切ったレースなので次は勝たないレースを振り返って、陸連の強化育成部推薦選手としてアジア大会の代表選手として選出されたが、村山は「代表になったのは、自分の力だけではなく皆への応援のおかげだと思う。今回のレースでの反省点をアジア大会で生かしたい」と目標を語った。



記者募集  
記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材書き方を基本から指導します。留学生も「学生記者」として活躍しています。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などで協力してくれる学生もぜひ参加してください。  
連絡はこちらまで [josaishorts@josai.ac.jp](mailto:josaishorts@josai.ac.jp)

競り合う村山（右）と佐藤選手（左、日清食品グループ）

### 第93回関東インカレ 男子1万メートル 村山優勝 女子ハードル 田邊がV

男子は村山が1万メートルで優勝し、5000メートルでは5位入賞、男子2部で兄の村山謙太郎大が優勝してからのスタートだった。レース前、兄には「自信を持っていけば勝てる」と言われ、「深呼吸した走りかたで勝つ」と話した。駅伝部の正将として村山は「無事に1部残留が決まったが、長距離種目では入賞人数を稼ぐことができなかった。来年はもっと7人で多くの選手が活躍できるように頑張ってもらいたい」と語った。

1000メートルでは山口竜哉（経営3）、4000メートルでは佐藤太郎（経営2）、8000メートルではそれれら5位に入賞。また城西大学のお家芸である4000メートルで4位に入賞した。

女子は田邊ちひろ（経営4）が1000メートルで優勝、1000メートルで赤司かすみ（経営4）が8位入賞を果たした。大会新記録が繰り出すハレルハ大会となったが、城西大学の選手も自己ベストを出す選手が多く、収穫の多い大会だった。

### 総合13位 8年連続1部残留

ガッツポーズを作るようにフィニッシュし、そして笑顔を見せた。女子1000メートルで優勝した田邊は、これが大学で初タイトルとなった。「冬季練習をケガがななめて、好調を維持してきた田邊（関東インカレでは表彰台に上る）夢が叶った」と喜んでいた。地元・大分県から観戦に来たという。毎年観戦に訪れているが、最終年の今年は大分県大会はすべて観戦するものが出たと話された。その中心の支えになったと振り返る。「レース直後は優勝の実感がなかったが、両親の涙を見て優勝の実感がわいてきた。苦しいときも支えられた両親の前で、優勝という最高の結果を獲ることができた」と笑顔だった。女子のキャプテンとして、またまた陸上競技部を引っ張るつもりだ。

### 男子4000メートル 佐藤2位 陸上個人選手権

6月20日、21日に神戸県の「Saitamaスタジアム」で、日本学生陸上競技個人選手権が開かれた。男子4000メートルで佐藤太郎（経営2）が2位、堀井浩介（経営2）が3位入賞した。



25につづく



城西人

もう一度ランナーへ 東京マラソンで活躍

平塚潤 経営学部准教授



経営学部准教授の平塚潤先生は、昨年の東京マラソンで年代別の1位、さらに44歳フルマラソンの日本記録(2時間26分4秒)をマークした。

現役時代には、日体大で箱根駅伝に出場し、広島アジア大会では1万5000mで銀メダルを獲得した。そして世界陸上代表の経験も持つ。一度は走ることに離れたが、自分には走ることにしかないと感じ、市民ランナーとしてまた走り出した。

現在も、来年の東京マラソンで年代別の日本記録を出すため、日々トレーニングを積んでいる。目標は2時間24分だという。現役時代に比べ、走れる時間が限られているなか、一人で黙々と練習をこなす。

気持ちは、現役時代に負けていない。平塚先生は「学生時代は自分が決めたことに熱中し、大いに自分を追求できる時間だ。その時間を大切に、悔いの残らない学生生活を送ってほしい。生徒が頑張っている姿を見ると、勇気もらえる」と話す。私も、一度離れてしまったことに再挑戦してみようと思った。

【関原彩賀】

女子ソフトボール部 春季リーグV インカレ制覇へ勢い
秋に続いて春のリーグ戦も制した女子ソフトボール部は、昨年から主力メンバーがほぼ変わらず、コソコソ実力を積み上げてきた。足を速くする選手が多いことが、今のチームの特徴だ。新人生に5人のヒッチャーが入って層が厚くなったのも強みだ。練習では細かくミスをなくすことを課題に日々取り組んでいる。
チームはポーターへの感謝の気持ちを胸に、8月に行われるインカレで優勝することを目指している。全勝で優勝した春のリーグ戦の勢いそのまま、インカレ優勝をぜひ果たしてほしい。

◆今後の日程◆
▽8月8~10日 東日本大会(東京都八王子市瑞穂ヶ原グラウンド)
▽8月30日~9月1日 インカレ(選手県花巻市)

男子ソフトボール部 春季リーグ全勝優勝 夏の戦いへつなぐ

第9回春季リーグが5月3日(土)~5日(月)、坂戸市民総合運動公園で行われ、城西大学は連リーグで専事に優勝を果たした。5月3日(土)に行われた初戦の相手は都留文科大。城西大は3回の打者10人による猛攻で、一挙に5点を挙げ、10対3でコールド勝ちを決めた。2回戦の東海大戦も4回に打者一巡の猛攻で一挙に4点を挙げ、6対1で勝利した。3回戦は昨年の春季リーグで優勝した国際武道大の対戦だった。3、4回に計4安打で3得点と効果率の良い攻撃を見せ、先発の宮原は7回9奪三振完封の好投で相手を抑えつけた。4回戦の関東学院大戦は、3回までに8得点と大

量リードし、中盤打者一巡の猛攻を受け5失点するも、序盤の大量リードに守られ9対6で勝利した。最後の5回戦は昨年の秋季リーグで優勝した東京理科大学の戦いだ。城西大は1、4、5、6回に1点ずつ得点した。また先発の里沢は5回、被安打0、8奪三振無失点の好投を見せ、結局4対2で勝利を収めた。
昇軍、全勝優勝を果たしたが、「春季リーグ優勝チームはソカレに出場できる」という6年続いているシックスを打ち破ることができたか、今後の男子ソフトボール部の活躍に期待したい。

【松岡寛史】

ようこそ監督さん

やるからには本気で！ 目標は五輪選手を輩出 千葉佳裕 陸上競技部監督

本年度より土江寛裕前監督に代わり、陸上競技部監督に就任いたしました千葉佳裕です。

現役時代は400mハードル選手として、常にストイックにトレーニングに励んできました。成功の数より失敗の数の方が多かった競技生活でしたが、単身でヨーロッパの試合を転戦したり、アメリカのボルダーで高地トレーニングをしたりするなど普通の選手ではできないことを、たくさん経験させていただきました。そこで学んだ知識や経験は私の財産として城西大学の学生たちに伝えていければと思います。

2008年の日本選手権で現役を引退し、セカンドキャリアで悩んでいたころ、土江先生から「一緒に城西大学陸上部を強くしないか」と声をかけていただいたのがきっかけで、城西大学にきました。

「やるからには、本気でやる」をモットーに学生たちには憎まれるくらい辛い練習メニューを出してきました。少しずつではありますが、関東インカレ、全日本インカレ、また日本選手権でも活躍できる選手を輩出できるようになってきました。

今後のチームの目標は常に上を目指し、2016年のリオオリンピック、2020年に東京で開催される東京オリンピックに選手を輩出することです。これからも、スポーツを通して城西大学を盛り上げていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

★昨年11月に結婚した千葉監督の奥さんは、女子400mハードルで日本選手権8連覇中の久保倉里美選手(新潟アルビレックスFC)です。



女子駅伝部の主将、梅原凌(経営)は初日、1万5000mに出場したが9位で入賞を逸した。「練習をまで積んできたので、必ず入賞するという気持ちで臨んだ。しかし長い距離に対する苦手意識から脱落することができず、入賞に1歩及ばなかった」と悔んだ。3日目に行われた5000mには梅原のほか、期待されていた和田道香(経営)も出場する。最後まで見てあげたい」と語る鎌倉、陸上競技部を盛り上げる気持が伝わってきた。



で優勝しました。また、関東ブロックの指導部長を中心に小中学校やクラブ向けの講習会も開いています。私も2年前に日本ベタンク・プール連盟公認の審判員と指導員の資格を取り、普及の活動をしています。2年前からは城西大学健康市民大学の講座に「ベタンク講座」を設けていただき、昨年は地元の城山小の4年生に体育の授業としてベタンクを指導させていただきました。ベタンクは性別、年齢に関係なく初めての人でも楽しめるスポーツです。坂戸キャンパスで学生さんを目にすると、勉強の合間にベタンクを体験して「ベタンクの精度と戦略、大逆転の魅力」を知ってほしいという思いです。【管財課職員 泉恵美子】



100mハードルを制した田道(中央)



100mで力走する山口(右)

十種競技の種高跳びに打ち込まれた山口は、100mハードルを制した。100mハードルで自己ベストを更新した。100mハードルは決勝で10秒34の自己ベストを出した。このタイムは、100mハードルで「風」追い風1・6m/sに救われた感じ。5分を出し切れない様子。週目の200mハードルでは大輪に自己ベストを更新。それでも「まだタイムは出る」と思う。100mハードルで準決勝進出者がいなかった。「マネジャー、応援の部員に申し訳ない。来年以降にリベンジのチャンスがある。今大会の経験を生かしたい」と次回大会を見据えた。

100mハードルで自己ベストを出した山口は、各種目で自己ベストを更新した。100mハードルは決勝で10秒34の自己ベストを出した。このタイムは、100mハードルで「風」追い風1・6m/sに救われた感じ。5分を出し切れない様子。週目の200mハードルでは大輪に自己ベストを更新。それでも「まだタイムは出る」と思う。100mハードルで準決勝進出者がいなかった。「マネジャー、応援の部員に申し訳ない。来年以降にリベンジのチャンスがある。今大会の経験を生かしたい」と次回大会を見据えた。

陸上競技部のマッシュレーである鎌倉恵美、現代政策4は、選手の名刺をまとめる作業だけではなく、スタンドの最前列で声を枯らしながら選手に声援を送っていた。関東インカレの4日間を「ずっとドキドキしていた。でも、私たちの学年らしい大会だったので」と振り返る。4年生は、この中が良かった。選手と応援サポーターが一つになれた大会だったと評した。

このからの女子駅伝部に大きな期待が膨らむ。今後は梅原、和田は女子駅伝部の大黒柱としてさらさら目指してほしい。【佐川由紀】

陸上・関東インカレ 自己ベスト続々

十種競技9位 大舞台で充実の涙 小池大貴
小池大貴(経営4)は、今季1年の秋から十種競技を始めた。関東インカレに出場するようになったのは昨年か。2日間で、みんなが本当に応援してくれた。最終種目の1500mが終了した後は、勝手に涙が出てきた。十種競技では初めての大会で大舞台で入賞まであと2歩の9位を健闘した。今年1日目は、時限では入賞圏内だったが、2日目に成績を落としたという結果に終わった。大会前には内転筋が肉離れ、胸肩創傷の十種だった。しかし、小池は、「2日間ともに十種目をやってきた仲間、感謝の気持ちを伝えたい。これが十種競技のいいところ。その魅力を語る。十種競技で多くの経験を、多くのものを得た小池の表情は、とても充実していた。

女子駅伝部の主将、梅原凌(経営)は初日、1万5000mに出場したが9位で入賞を逸した。「練習をまで積んできたので、必ず入賞するという気持ちで臨んだ。しかし長い距離に対する苦手意識から脱落することができず、入賞に1歩及ばなかった」と悔んだ。3日目に行われた5000mには梅原のほか、期待されていた和田道香(経営)も出場する。最後まで見てあげたい」と語る鎌倉、陸上競技部を盛り上げる気持が伝わってきた。

関東インカレで活躍したのは、出場した選手だけではない。応援、サポーターに回る部員たちも大きくなった。陸上競技部のマッシュレーである鎌倉恵美、現代政策4は、選手の名刺をまとめる作業だけではなく、スタンドの最前列で声を枯らしながら選手に声援を送っていた。関東インカレの4日間を「ずっとドキドキしていた。でも、私たちの学年らしい大会だったので」と振り返る。4年生は、この中が良かった。選手と応援サポーターが一つになれた大会だったと評した。

このからの女子駅伝部に大きな期待が膨らむ。今後は梅原、和田は女子駅伝部の大黒柱としてさらさら目指してほしい。【佐川由紀】

Column ベタンク

「地上のカーリング」 性別や年齢関係なく楽しめる

「地上のカーリング」とも言われるベタンクは1910年、南仏の港町ラ・シオタで生まれたボールスポーツです。世代を超えて気軽にプレーできる生涯スポーツと、高度な技術や戦略を学ぶ奥深さをもった競技スポーツの特性を併せ持っています。

ルールは簡単に4.5m×15mのコートの中で、直径50cmのサークル内から投げたビュット(木製)と呼ばれる直径3cmの的球を投げつけ、金属製のボール(直径7~8cm、重さ650~800g)を投げ合います。チームの編成は、トリプルス(3人対3人で1人2球)、ダブルス(2人対2人で1人3球)、シングルス(1人3球)があり、大会主催者が決めます。

私がベタンクと出会ったのは7年前。坂戸市の体育協会が行った「ベタンク」の呼びかけに、地域の皆さんと参加したことでした。県内外の大会に参加するようになり、すばらしい精度と確率の高い選手と対戦することによって技術の精度を磨き、会得していく楽しさに引き込まれていきました。埼玉県には優秀な選手が多く、私は選抜チームのメンバーとして2010年に日本ベタンク選手権(女子)で優勝、11年には東日本ベタンク選手権(混成)

Pharmacy×Sport 世界で注目の経口補水療法 水分と電解質を素早く補給

成人の体は、約60%が水分です。この水分は体液の主成分であり、ナトリウムイオン、カリウムイオン、カルシウムイオンなどが溶けています。体液は細胞の内外を行き来していて、必要な酸素や栄養素を運ぶ必要不可欠な老廃物を運ぶ体温を調節する恒常性を維持する——という生命を維持する上で重要な役割を担っています。私たちは通常、1日約1500ml~2500mlの水分を失っています。しかし、食べ物や飲み物からほぼ同量の水分を取り、バランスを保っています。では、このバランスが崩れてしまうと私たちの体はどうなってしまうのでしょうか。水分が不足すると、体に異常が現れ、さらに進行すれば、命にかかわる状況をつくり出します。この状態を脱水症状と呼びます。脱水症状とは、体から水分だけでなく、電解質も失われた状態のことです。これは、病態を複雑にする病気の治療を遅らせる病気を重症化させる脳梗塞や心筋

なった老廃物を運ぶ体温を調節する恒常性を維持する——という生命を維持する上で重要な役割を担っています。私たちは通常、1日約1500ml~2500mlの水分を失っています。しかし、食べ物や飲み物からほぼ同量の水分を取り、バランスを保っています。では、このバランスが崩れてしまうと私たちの体はどうなってしまうのでしょうか。水分が不足すると、体に異常が現れ、さらに進行すれば、命にかかわる状況をつくり出します。この状態を脱水症状と呼びます。脱水症状とは、体から水分だけでなく、電解質も失われた状態のことです。これは、病態を複雑にする病気の治療を遅らせる病気を重症化させる脳梗塞や心筋